

平成29年度第1回 しが新事業応援ファンド助成金交付事業 一覧

No.	事業者名	採択事業	本社住所	代表者	事業名	事業概要	資源の種類
1	株式会社 まっせ	開発	近江八幡市永原町上8 0748-32-7482	山本 昌仁	地域資源「西の湖」を活用した 地域体験ツアーの開発事業	重要文化的景観をもち、日本遺産に指定されている西の湖は、自然・歴史・文化が融合した希少な資源である。この西の湖を活用して、親子が休日にわくわくするような体験ができるプログラムを開発することで、西の湖の新たな魅力を引き出す。	観光資源
2	サルティンボッカ	開発	草津市野路1丁目12-28 077-561-7574	木村 昭仁	地域資源「近江牛」と「環境こだわり農産物」を活用した 高齢者向けレストランメニューと介護食の試作開発事業	増加するシニア層の外食市場と介護食市場に向けて、近江牛と滋賀の農産物を使用した、軟らかな食感で食べやすいレストランメニューを開発する。さらに、在宅の要介護者向けに、軟らかさを段階的に調節したテイクアウト商品を開発する。	農林水産物
3	有限会社 永源寺マルベリー	開発	東近江市永源寺高野町201 0748-27-0772	吉澤 克美	地域資源「永源寺の桑」を活用した 桑茶新商品の開発事業	弊社が販売してきた桑茶には、血糖値上昇抑制成分が含まれている。また、桑茶に用いなかった桑枝には、有効成分が桑葉より多く含まれている。そこで、桑茶に桑枝を配合し、血糖値抑制効果が高く、美味しく、飲みやすい桑茶を開発する。	農林水産物
4	有限会社 とも栄菓舗	開発	高島市安曇川町田中43-1 0740-32-0842	西沢 勝治	地域資源「アドベリー」を活用した 新たな滋賀の土産菓子開発事業	アドベリーは健康に良い成分を多く含み、国内では安曇川でしか栽培されていない。これを用い、魅力的で、日持ちの良いお菓子を開発して、アドベリーのブランド価値を高め、滋賀の土産品として広く流通できる商品に育てることを目指す。	農林水産物
5	北びわ湖国際観光推進協議会	開発	長浜市八幡東町632番地 0749-65-6521	大塚 敬一郎	地域資源「伊吹そば、浜ちりめん、和楽器系」などを活用した 産業観光・体験観光コンテンツの開発事業	湖北地域には伝統産業や工芸品が数多くある。そのうち、伊吹そば、浜ちりめん、和楽器系、富田人形、ろくろ工芸品を活用し、見学と体験を組合せた魅力ある観光体験コンテンツを開発して外国人旅行者を誘致し、地域経済の活性化を図る。	農林水産物・鉱工業品
6	株式会社 鹿深サービス	開発	甲賀市甲賀町相模683-5 0748-88-5799	藤田 進	地域資源「近江米」を活用した 滋賀プロ野球チーム応援米粉唐揚げ開発事業	滋賀初のプロ野球チーム「滋賀ユナイテッド」は、白と黒の忍者をモチーフにしている。これにちなんで、黒にんにくを挟み、白い鹿深米の米粉を使った唐揚げを開発し、試合会場と地元甲賀で販売することで、滋賀ユナイテッドを応援する。	農林水産物
7	古代米すいらん	開発	近江八幡市永原町中12尾賀商店内 080-3271-1123	杉本 宏樹	地域資源「ビワマス、近江の茶、環境こだわり農産物」を活用した 新商品開発事業	「琵琶湖の宝石」とまで言われるビワマスを冷燻し、表面に地場野菜、茶葉と茶木のチップをまぶし、四季折々の野菜ソースを添えた加工食品を開発する。品質を保持したまま長期保存できる方法を開発することで、県内外に幅広く供給する。	農林水産物
8	株式会社 植空	開発	高島市新旭町熊野本984-2 0740-25-3046	上田 誠	地域資源「びわ湖材」を活用した 癒しの空間ビオトープ開発事業	幼稚園・保育園業界向けに全国展開してきたビオトープ(小規模な生物・植物の生息空間)事業を、エコ・環境分野、店舗・商業施設分野、ホテル・レストラン分野に向けた商品開発を行い、展示会に出展することで、事業拡大を目指す。	農林水産物
9	PIA 株式会社	開発	野洲市須原225番地 077-589-5390	高岡 伸行	地域資源「環境こだわり農産物のアスパラガス」を用いた 従来収穫できない時期に収穫可能とするサービスの開発事業	アスパラガスの根株を冬眠させて、発芽時期と収穫時期を制御する技術を開発する。プランター栽培にすることで、高齢者の福祉施設でも栽培と収穫が可能となり、今後、福祉と農業が連携した福祉農園開設を後押しするサポート事業となる。	農林水産物
10	株式会社 滋賀のええもんや	開発	大津市丸の内町4-46 090-2194-1666	井上 修司	地域資源「草津メロン」を活用した 製菓原料としての1次加工品とそれを利用した新たな土産品の開発事業	高級な草津メロンの規格外品を活用して、これまでに、製菓原料のメロンパウダーとメロンピューレを開発した。2年目の今回は、原料のレベルアップを図るとともに、加工品ラインアップを拡充して、地域の特産品や土産品として定着させる。	農林水産物

平成29年度第1回 しが新事業応援ファンド助成金交付事業 一覧

No.	事業者名	採択事業	本社住所	代表者	事業名	事業概要	資源の種類
11	明山陶業 株式会社	開発	甲賀市信楽町長野1055-1 0748-82-0278	石野 伸也	地域資源「信楽焼」を活用した 子育て生活を楽しむ新商品の開発事業	ライフスタイルにこだわりを持つ子育て世代をターゲットとし、“子供との日常の暮らしを豊かにしたい”という潜在需要に応える信楽焼の陶器アイテム・ブランドを外部デザイナーと協働開発し、信楽焼きとして新しい市場の開拓を目指す。	鉱工業品
12	株式会社 清水 鐵工所	開発	彦根市安清町4-16 0749-22-2552	清水 克己	地域資源「彦根バルブ」を活用した水道用バルブの新商品開発事業	国内の既設水道は取替時期にきているので、取替工事を容易にし耐久性に優れた2種類の弁を開発する。①既設管を断水することなく管路を分岐可能にする弁、②ポリエチレン管と一体化した弁、の2種類である。	鉱工業品
13	日本黒鉛工業株式会社	開発	大津市唐橋町9-22 077-537-2098	渡邊 頼光	地域資源「炭素・黒鉛製品」を活用した 電気自動車向け・家庭用発電向け電池部品素材の試作開発事業	電気自動車が普及するにはバッテリーの高性能化が不可欠である。バッテリーの導電助剤として黒鉛を微細化・薄片化することで、電気抵抗を下げ、放電容量を増やし、起電力を向上できる。これにより電気自動車の普及に貢献できる。	鉱工業品
14	株式会社 昭和バルブ製作所	開発	彦根市小泉町155-9 0749-22-4659	中川 哲	地域資源「彦根バルブ」を活用した 繊維質流体や粉体に適したバルブの開発事業	流体制御を幅広く手掛ける当社が、繊維質流体や粉体に適したバルブを開発し自社で供給可能とする。これにより、顧客が使用するバルブの大部分を自社で賄うことが可能となり、顧客の利便性が増すとともに、自社も事業拡大できる。	鉱工業品
15	株式会社 林与	開発	愛知郡愛荘町東円堂1770 0749-42-3245	林 与志雄	地域資源「湖東麻織物(近江上布)」を活用した 広幅絁織物の開発事業	近江上布の絁柄デザインは海外の展示会で評価が高いが、織幅が狭いので着物用途にしか使えない。織幅を広げ、昔ながらのデザインを活用することで、アパレルやインテリア向けの商品を開発して全世界に発信する。	鉱工業品
16	DEUX INTERNATIONAL 株式会社	開発	大津市松原町7-17河津ビル 090-7759-7010	河津 みか	地域資源「朝宮茶・近江米」を活用した インバウンド向けカフェ開発・販路開拓事業	ビーガン・ベジタリアン・ハラールなど、民族性や宗教観などによる外国人の多様な食制限に対応し、地産地消とオーガニックにこだわった素材を用いた外国人観光客向けメニュー開発を行い、移動カフェと自社店舗(秋に開店)で販売する。	農林水産物
17	株式会社 みんなの奥永源寺	販路	東近江市君ヶ畑町844 080-3108-7172	前川 真司	地域資源「万葉の植物ムラサキ」を活用した シコンコスメの販路開拓事業	絶滅が危惧されている「ムラサキ」の根は紫根(シコン)と呼ばれ、古くから漢方薬に活用されてきた。従来のシコンコスメ原料は殆どが中国産であり、今回、完全オーガニックな国産品を日本初で数アイテム開発した。販路開拓に挑戦する。	農林水産物
18	丸松木材 株式会社	販路	彦根市古沢町646 0749-22-5535	松田 充弘	地域資源「びわ湖材」を活用した オリジナルカロムの販路開拓事業	彦根地方に残る伝統的なカロムゲームを、ボードゲームとしてだけでなく、企業に活用してもらうために、盤面とコマのデザインを一新した新商品を数種類試作開発した。これらを広告宣伝ツールとして幅広く使ってもらえるよう、販路開拓する。	農林水産物
19	Blink Leather Works	販路	大津市大石富川1-12-23 090-4905-4805	田中 貴司	地域資源「近江牛」を活用した 皮革製品販路開拓事業	近江牛皮は柔らかくしっとりしていて、使うほどに艶やかになる。当社はその特徴を活かし、更に厚みを極力薄くし、新たなデザインのビジネスバック・名刺入れ・小物類を開発した。今後、自社Webショップを軸として販路開拓を行う。	農林水産物
20	株式会社 アートブラン	販路	彦根市川瀬馬場町750-7 0749-25-5600	渡辺 正	地域資源「医療・健康機器」を活用した 移乗介助ロボットの販路開拓事業	当社は、下半身に障害があっても「おんぶ」の姿勢ができれば、ベッド⇄車いすに移乗できる移乗介助ロボットを販売している。今回、「おんぶ」が出来ない人を対象とし、施設等の利便性も向上させた新商品を開発したので、販路開拓する。	鉱工業品